学校番号	T4001

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史探究ｂ	単位数	４単位	年次	１～４
使用教科書	「世界史探究」（実教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界史探究では人類の誕生から現代社会が形成されるまでの歴史を扱います。毎回各地域や時代ごとの内容をまとめたレポートを配布し、教科書を用いて学習を進めます。そのため、教科書をしっかりと読み、レポートに取り組むことが必要になります。授業では、レポート作成を進めるうえで必要となる基礎的な事項について扱います。成績はレポート、授業、テストの結果を総合的に評価します。

グローバル化が進み、地域や国をこえて人々のつながりが強まっている現代の社会がどのようにして形成されたのかということを意識しながら学習に臨んでください。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】
人類の誕生から現代社会が形成されるまでの基本的な流れを理解することができる。また、学習内容をもとに現代社会のあり方や課題について地域や社会の当事者としての意識をもちながら探究することができる。
【思考力、判断力、表現力等】
地域同士のかかわりや地理的条件にも着目し、多角的・多面的に現代社会の形成過程を考察することができる。また、日本の歴史とも関連づけながら世界全体の流れを俯瞰することができる。
【学びに向かう力、人間性等】
学習を通して世界史への興味・関心を高め、世界史を学ぶ意義に気づくことができる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・古代から現代にいたるまでの世界の歴史の流れ、基本的な知識を理解することができる。 ・世界史の枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史とも関連づけながら理解することができる。	・地域同士のかかわりや地理的条件にも着目し、多角的・多面的に現代社会の形成過程を考察し、まとめることができる。 ・世界の歴史を、地理的条件、日本の歴史などの様々な要素と関連付けて、実証的・多角的・多面的・批判的に考察し、自分の考えを適切に表現することができる。	・世界史への興味・関心を高め、世界史を学ぶ意義に気付くことができる。 ・世界史の大まかな流れを理解した上で、現代社会のあり方や課題について地域や社会の当事者としての意識をもちながら探究することができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

		学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	単元名	近世ヨーロッパの形成と展開	a: 宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争，大西洋三角貿易の展開，科学革命と啓蒙思想などを基に，主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。 b: 大西洋三角貿易が，西ヨーロッパ・アフリカ・アメリカの３地域にもたらした変化について，奴隷船の実態や扱われた商品，イギリスの産業革命との関係に留意しながら，多面的・多角的に考察し，表現している。 c: ポルトガルとスペイン，さらに，オランダ・フランス・イギリスの盛衰と経済力の関係について，アジア・アフリカ・アメリカなどの非ヨーロッパ世界との交易にも注目しながら，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート
	諸地域の結合と変容	・産業革命と大西洋革命	a: 産業革命と環大西洋革命などを基に，国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 b: 産業革命により欧米諸国とそれ以外の諸国・地域の関係がどう変化したか，多面的・多角的に考察し，表現している。大西洋革命の背景となった出来事や，越境した人々の思想や行動を整理し，それらの影響や働きについて，多面的・多角的に考察し，表現している。 c: 産業革命によっておこった変化のうち，世界史上の転換点として考えられるものについて，さまざまな技術革新，資本主義と社会主義の関係，国際関係の再編などをふまえながら，主体的に追究しようとしている。アメリカ独立宣言やフランス人権宣言の内容と共通している部分について，大西洋革命が世界史に刻んだ普遍的性格をふまえながら，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート

		近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家	a：自由主義とナショナリズム，南北戦争の展開などを基に，国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 b：大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，自由主義とナショナリズムの特徴，南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c：19 世紀後半に最も国家統合に成功したと考える国について，近現代の事例から，国家統合の功罪についても配慮する視点をもちながら，よりよい社会の実現を視野に，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート
		地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗	a：第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争，アジア諸国の変革などを基に，世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。 b：列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，世界経済の構造的な変化，列強の帝国主義政策の共通点と相違点，アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c：アフリカの現状をふまえてそこに至る歴史的経緯を整理しながら，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。列強による植民地化が東南アジア諸国にどのような経済構造の変化をもたらしたのか主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート

		第一次世界大戦と諸地域の変容	a:第一次世界大戦とロシア革命，ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成，アメリカ合衆国の台頭，アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に，第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 b: 総力戦が社会をどのように変えたのかについて，多面的・多角的に考察し，表現している。国際連盟が平和維持のために十分な力を発揮できなかったのはなぜか，多面的・多角的に考察し，表現している。ドイツとイタリアにおけるファシズムの萌芽が 1920 年代にうまれていることについて，その歴史的意義を多面的・多角的に考察し，表現している。 c:第一次世界大戦がそれまでの戦争とどのような点で異なっているのか，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート
		・第二次世界大戦と戦後の国際秩序	a: 世界恐慌とファシズムの動向，ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを基に，国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序，冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを基に，第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 b: 世界恐慌と国際協調体制の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点，ファシズムの特徴，第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c: 連合国側が第二次世界大戦に勝利できた要因を複数挙げ，その中から最も重要な要因について主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート

	地球世界の課題	冷戦と現代社会	a：集団安全保障と冷戦の展開，アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き，平和共存と多極化の進展，冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に，紛争解決の取組と課題を理解している。 b：国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，国際連盟と国際連合との共通点と相違点，冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点，紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現している。 c：冷戦期における緊張緩和のきっかけと考えられる事例を複数挙げ，その中から最も重要であると考えられることを，歴史的事実を根拠として主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート
		世界経済の展開	a：先進国の経済成長と南北問題，アメリカ合衆国の覇権の動揺，資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換，アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題，経済のグローバル化などを基に，格差是正の取組と課題を理解している。 b：南北問題の問題点を明らかにしたうえで，SDGs で掲げられる国内・国家間の不平等の是正のための具体的方策について多面的・多角的に考察し表現している。 c：冷戦と南北問題がもっていた問題点をそれぞれ挙げたうえで，どちらが先に解決すべき問題だと考えられるか，歴史的事実を根拠にしながら主体的に追究しようとしている。世界の格差がうまれた原因を歴史的に説明したうえで，それを解消するための手立てを，誰が主体になるべきかに留意しながら，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート

		科学技術の発達と知識基盤社会	a: 原子力の利用や宇宙探査などの科学技術, 医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理, 人工知能と労働の在り方の変容, 情報通信技術の発達と知識の普及などを基に, 知識基盤社会の展開と課題を理解している。 b: 科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因, 結果や影響, 事象相互の関連などに着目し, 主題を設定し, 諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き, 現代の科学技術や文化の歴史的な特色, 第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し, 表現している。 c: Society1.0 から 4.0 までの歩みと社会にもたらした影響を歴史的に検証し, Society5.0 に向けての諸課題を自身の生活や経験とも関連付けて, 主体的に追究しようとしている。科学技術の革新が軍事技術の革新となり, 結果として人を傷つけることにつながらないようにするために国際社会はどのように対応すればよいかについて, 主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 提出課題	授業中の態度 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度